

主要産地における平成28年度産水稲の生育状況等について 第9報 (7月22日現在)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部（平成28年7月22日）

道府県	区分	生育状況等（自治体等公表資料の抜粋）	生育状況等
		同左及び同項事項に対する自治体等公表資料等（抜粋）	
北海道		<p>（全道）生育は平年並（遅2）。草丈は59.1cmで平年より短く、葉数は10.2枚で平年並、葉数は644本/m²で平年並。 〔北海道農政部 7月15日現在〕</p> <p>（空知）生育は平年並に進んでいる。草丈は61.2cmでやや短い、葉数は10.3枚で平年並、葉数は649本で平年並。 〔空知総合振興局 7月15日現在〕</p> <p>（石狩）生育は平年並に進んでいる。草丈は54.4cmで短く、葉数は9.8枚で平年並、葉数は667本で平年並。 〔石狩総合振興局 7月15日現在〕</p> <p>（後志）生育は平年より遅い回復しつつある。草丈は56.2cmで平年よりやや短く、葉数は9.9枚で平年並、葉数は605本で平年よりやや少ない。〔後志総合振興局 7月15日現在〕</p> <p>（胆振）生育は平年並（遅2日）。草丈は50.8cmで短い、葉数は9.9枚で平年並、葉数は568.2本で平年並。 〔胆振総合振興局 7月15日現在〕</p> <p>（日高）生育は平年並み（遅2日）。草丈は55.6cmで平年より短く、葉数は9.9枚で平年並、葉数は555.1本で平年より少ない。 〔日高総合振興局 7月15日現在〕</p> <p>（渡島）生育は平年並み（遅2日）で平年並、葉数は9.6枚で平年並、葉数は709本でやや少ない。 〔渡島総合振興局 7月15日現在〕</p> <p>（樺山）生育は回復しつつある（遅4日）。草丈は52.1cmで短い、葉数は9.8枚でやや少ない、葉数は627.7本でやや少ない。 〔樺山総合振興局 7月15日現在〕</p> <p>（上川）生育は平年並みやや遅れて推移している（遅4日）。草丈は60.0cmで短い、葉数は10.4枚で平年並、葉数は655本で平年並。 〔上川総合振興局 7月15日現在〕</p> <p>（留萌）生育は順調に進んでいる。草丈は59.5cmでやや短い、葉数は10.6枚で平年並、葉数は602本でやや多い。 〔留萌総合振興局 7月15日現在〕</p> <p>（オホーツク）生育は平年並（遅2日）。草丈は60.7cmで平年より短い、葉数は8.3枚でやや少なく、葉数は569.5本で少ない。 〔オホーツク総合振興局 7月15日現在〕</p>	<p>・7月の月もち病（葉いもち）の発生量はやや多いと予想。ウンカ類とアカヒゲホソミドリカスミカメの発生量は平年並、ニカメイガ、イネドクオウムシ、フタバコヤガの発生量はやや少ないと予想。 〔北海道病害虫防除所 6月30日公表〕</p>
青森		<p>・7月20日現在の「つがるロマン」の生育状況は、草丈が59.3cmで平年より11.1cm短く、株当たり葉数は28.3本で平年より0.9本少なく、葉齢は11.1葉で平年より0.7葉少なかった。また、「青天の霹靂」の生育状況は、草丈が68.6cmで前年より2.3cm短く、株当たり葉数は25.4本で前年より2.9本少なく、葉齢は10.2葉で前年より0.6葉少なかった。幼穂形成期の到達日は、7月13日で平年より1日遅く、「青天の霹靂」は7月10日で、前年より1日遅かった。</p> <p>・7月20日現在の十和田の「まっしぐら」の生育状況は、草丈が68.4cmで平年より6.0cm短く、株当たり葉数は21.5本で平年より1.6本少なく、葉齢は11.5葉で平年並みであった。幼穂形成期の到達日は7月4日で、平年より6日早かった。〔青森県 7月20日付〕</p> <p>（雄町）7月20日現在の「つがるロマン」の生育状況は、草丈が59.3cmで平年より11.1cm短く、株当たり葉数は28.3本で平年より0.9本少なく、葉齢は11.1葉で平年より0.7葉少なかった。「青天の霹靂」の生育状況は、草丈が68.6cmで前年より2.3cm短く、株当たり葉数は25.4本で前年より2.9本少なく、葉齢は10.2葉で前年より0.6葉少なかった。 〔十和田市 7月20日現在の「まっしぐら」の生育状況は、草丈が68.4cmで平年より6.0cm短く、株当たり葉数は21.5本で平年より1.6本少なく、葉齢は11.5葉で平年並。〔青森県農業技術センター-農林総合研究所 7月21日付〕</p>	<p>・7月中旬から向こう1カ月で、斑点カメムシ類の発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</p> <p>・7月の葉いもち、稲こじ病はやや多いと予想。コバネイナゴはやや少ない、斑点カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）はやや多い、フタバコヤガはやや少ないと予想。 〔青森県病害虫防除所 6月29日公表〕</p> <p>・イネミズウムの発生は「やや多い」と予想 〔農林水産省 6月21日付〕</p>
岩手		<p>・7月3日時点の出穂予想 いわてっこ：（北上川上流）7月31日～8月6日、（北部）8月3～10日 どんひしゃく：（北上川下流）7月30日～8月7日、（東部）8月7～20日 ひとめぼれ：（北上川上流）8月5日～16日、（北上川下流）8月5～11日、（東部）8月6日～17日 〔岩手県 7月12日付〕</p> <p>・7月5日現在、農業研究センター（北上）では、草丈は「ひとめぼれ」で平年を上回り、「あきたこまち」で平年並みとなっている。葉数は「ひとめぼれ」で平年並み、「あきたこまち」で平年を下回っている。葉色（SPAD値）は「ひとめぼれ」、「あきたこまち」とも平年を上回っているが、平年と同様に低下し始めている。 県北農業研究所（軽米）の「いわてっこ」は、草丈、葉数、葉齢、葉色（SPAD値）とも平年を下回っている。 〔岩手県農業研究センター 7月7日付〕</p>	<p>・葉いもちの発生が確認され、発生が拡大しているほ場がみられる。 〔岩手県病害虫防除所 7月19日公表〕</p> <p>・7月上旬の水田畔すい取り調査では、カスミカメシ類の発生圃率、発生程度ともにほぼ平年並 〔岩手県病害虫防除所 7月14日公表〕</p>
宮城		<p>・7月11日現在、県内生育調査ほのほとんどの地点で幼穂が確認され、幼穂長の平均は3.7mm（平年並+1.5mm）となり、幼穂形成度（県全体の平均）は7月7日頃と見られ、平年に比べ2日程度早まっている。今後の気温が平年並みで推移した場合、出穂期（県全体の平均）は8月2日頃になる見込みである。生育については、草丈が62.6cm（平年比103%）、株当たり葉数は526本（平年比94%）、葉数は10.9枚（平年比+0.1）であった。 〔宮城県 7月12日付〕</p> <p>（大崎）7月20日現在、草丈は「ほほ平年並～やや短い」、葉数は、北部平坦ササニシキ及び西部丘陵まなむす、山間高冷やまのしずくは、平年並より上回っている。北部平坦及び西部丘陵のひとめぼれは、平年並を下回っている。葉数は「ほほ平年並～やや短い傾向」がみられる。北部平坦のひとめぼれ及びササニシキは7月18日、西部丘陵のひとめぼれは7月19日、山間高冷のやまのしずくは7月20日に減数分裂期に入ると見られる。今後の気温が平年並みで推移した場合、出穂期（県全体の平均）は8月3日頃（平年比95日）になる見込み。〔大崎農業改良普及センター 7月21日付〕</p> <p>（本吉）7月13日現在、気仙沼市の生育調査ほ（ひとめぼれ）では、平年と比較して、草丈は平年並、葉数は少なく、葉数は多く、葉色はやや濃くなっている。6月末から中干し期間に入った。葉数が平年より少ないのは、昨年から田植え機が替わったことに伴い栽植密度が変わった（少なくなった）ため。南三陸町の生育調査ほ（ササニシキ）では、草丈・葉数・葉色ともほぼ平年並。気仙沼の生育調査ほはまだ必要葉数に達していないが、管内の巡回調査者から、管内の稲穂水は十分な必要葉数（約45枚/m²）を確保したと思われる。生育は平年より2～3日進んでいると思われる。〔本吉農業改良普及センター 7月11日付〕</p> <p>（仙台）7月1日現在、出穂は平年より1日程度早まる見込み。〔仙台農業改良普及センター 7月6日付〕</p> <p>6月23日現在、灌水直播（5月中旬播種）では6～7葉展開期、葉数150本/m²程度で、ほ場により生育量にバラつきが多岐みられる。乾田直播（4月中旬播種）では8葉展開期、葉数300本/m²程度で、概ね順調に生育が進んでいる。 〔大河原 7月20日現在、生育調査ほは平年より早めに進み、平均葉数は減数分裂期に入っている。平年並み程度で出穂の早かった「ひとめぼれ」や「まなむす」は7月末頃、山間部の「やまのしずく」は8月上旬の出穂が見られる。播種生の「つや姫」は幼穂形成に入っている。〔大河原農業改良普及センター 7月20日付〕</p> <p>（美里）6月20日現在、生育は概ね順調で、葉数からみると平年に比べて2～3日程度進んでいるとみられる。 〔美里農業改良普及センター 6月23日付〕</p> <p>（栗原）草丈は平年並、葉数はやや少なく、葉数は平年より多く、葉色は平年を下回っています。幼穂形成始期は7月4～7日頃で、生育は平年より1～2日程度早まっている。 〔栗原農業改良普及センター 7月13日付〕</p> <p>（登米）平年に比べ草丈はやや長い（平年比96～109%）、葉数は平年並（平年比89～108%）、葉数は平年並（平年並～0.5～+0.5枚）、葉色はやや濃い（平年並～4.8～+1.7）、幼穂長：0.4mm～2.0mm（主基10本平均）で、移穂の生育調査ほ場全てで幼穂の形成が確認された。 〔登米農業改良普及センター 7月14日付〕</p> <p>（亶理）6月10日現在、葉数は前年並み、草丈は前年より高くなる傾向がみられる。乾田直播栽培では、苗立ち率は良好で初期にしては葉数も多く、葉数も増え、移穂栽培での生育の差は10日程度となっている。灌水直播栽培でも播種後の苗立ち率は高くなっている。〔亶理農業改良普及センター 6月13日付〕</p>	<p>・8月上旬までの葉・稲いもち、紋枯病、稲こじ病の発生量は平年並と予想。斑点カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）の発生量はやや多い、イネアオムシの発生量は少ないと予想。 〔宮城県病害虫防除所 7月19日公表〕</p>
秋田		<p>（鹿角）7月5日の定点調査では、草丈が49.8cm（平年比101%）で平年並、葉数は655本/m²（平年比106%）で多く、葉数が9.葉（平年-0.3葉）とやや少なくなった。葉色はSPAD値で42.9（平年比99%）で平年並になった。〔7月8日付〕</p> <p>（山本）7月15日現在の水稻定点調査ほ場（管内9地点）における生育状況は、草丈59.2cm（平年比29%）、葉数513本/m²（平年比96%）、葉数10.9（平年-0.1葉）となっている。〔7月15日付〕</p> <p>（秋田）7月15日現在の定点調査ほ（あきたこまち、10地点平均）の草丈は64.3cm（平年比98%）で平年並、m²当たりの葉数は480本（平年比96%）で平年より少なく、葉色（葉緑素濃度）は平年よりやや濃くなっている。また、葉数は11.3葉（平年並+0.2葉）で、平年並となっている。〔7月21日付〕</p> <p>（北秋田）7月5日現在のあきたこまちは、草丈52.5cm（平年比102%）、葉数532本/m²（平年比85%）、葉数10.2葉（平年並+0.1）、葉数から見た生育は平年並みとなり、葉色が平年より淡い状況。〔7月8日付〕</p> <p>（仙北）7月15日現在の「あきたこまち」の生育は、草丈60.5cm（平年比96%）、葉数616本/m²（平年比99%）、葉数10.7葉（平年比1.1葉）、葉色40.1（平年比100%）となっている。定点ほ場のほとんどで幼穂形成期を迎えている。〔7月15日付〕</p> <p>（平鹿）7月15日に行った水稻生育定点調査（あきたこまち11か所）の結果では、草丈が61.8cm（平年比97%）、葉数は490本/m²（平年比95%）、葉数が11.2葉（平年比+0.5葉）、葉色が42.7（平年比101%）となっている。〔7月15日付〕</p> <p>（雄勝）7月5日の生育状況（あきたこまち管内8か所平均）は、草丈50.1cm（平年比102%）、葉数464本/m²（平年比87%）、葉数9.7枚（平年-0.1枚）、葉色44.8（平年比99%）となっている。生育の進み具合は平年並だが、葉数が少ない傾向。〔7月9日付〕</p> <p>（由利）7月15日の水稻定点調査結果（3品種・移穂8か所平均）によると、草丈は63.5cmで長く（平年比102%）、m²当たり葉数は512本でやや少なく（平年比92%）、葉数は11.1葉で平年並（平年並+0.1葉）、ほとんどのほ場で幼穂形成期に入っており、稲の生育状況を見ながら、必要に応じて追肥作業がなされている。出穂期は平年より5日程度早まる予想される。〔7月21日付〕 〔秋田県農林政策課〕</p>	<p>・7月中旬から向こう1カ月で、斑点カメムシ類の発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</p> <p>・7月の葉いもち、褐色核病、稲こじ病の発生量は平年並、紋枯病の発生量はやや少ないと予想。セジロフカの発生時期は早く、発生量はやや多いと予想。斑点カメムシ類のアカヒゲホソミドリカスミカメの発生時期は早く、発生量は多い。アカヒゲホソミドリカスミカメの発生量はやや多いと予想。フタバコヤガ、コバネイナゴの発生量はやや少ないと予想。 〔秋田県病害虫防除所 7月1日公表〕</p>

山形	生育状況等	向き及び周辺事情に対する自治体等公表資料等（抜粋）
(生育)	<p>・7月20日現在の平均値「はえぬき」は、草丈、葉数、葉色は平年並みで、葉数は平年比92とやや少なくなっている。 <u>幼穂の育ちからみた平均値「はえぬき」では、7月10頃と見込まれる。</u> <u>「オールやまがた米づくり日本一運動本部 7月20日付」</u></p> <p>(北村山) 6月30日現在、生育は平年並み。但し、圃間間の生育量にばらつきが大きい。草丈は平年並み～やや短く、葉数は平年並み～少なく、葉数は平年並み～1日早く、葉色は色ムらがみられ、やや濃いものが多い。 (北村山農業技術普及課 7月5日付)</p> <p>6月30日現在、つや姫の生育状況は、指標に対し草丈は短く、葉数は並～やや少、葉色は格差が大きく、生育速度は速。前年より、ばらつきが大きい。(北村山農業技術普及課 7月5日付)</p> <p>(東南村山) 7月11日現在、「つや姫」調査ほ6か所の草丈、葉数、葉色はほぼ指標並で、葉数はやや少ない状況。 管内のつや姫の出穂は8月10日前後と予想(村山総合支庁農業技術普及課 7月12日付)</p> <p>(東南直轄) 6月30日現在の生育は、草丈は平年並み～やや長く、葉数は平年並み～やや少なく、葉色は平年並みの状況。葉数の進みは平年並み～やや早い状況で、今後も気温が高く経過すると予想されているため、さらに生育が進み、出穂が早まる見込み。地域別品種、指標との生育状況は、指標と比べ、草丈は並みからやや長く、葉数は並みからやや少なく、葉数は並みからやや多く、葉色は並みからやや濃い状況。今後も気温が高く経過すると予想されているため、さらに生育が進み、出穂が早まる見込み。予想出穂期は8月10日(平年8月12日)。 (オールやまがた米づくり日本一運動本部地域本部 7月5日付)</p> <p>(西村山) 6月30日現在のはえぬきの生育は、葉数の進みはほぼ平年並み、草丈はほぼ平年並み、葉数は圃間により少ない。葉色はやや濃い。(村山総合支庁西村山農業技術普及課 7月4日付)</p> <p>(酒田農業) 7月11日現在、生育診断ほの生育は、草丈は平年並、葉数はやや少ないが目標葉数は概ね確保されている。 葉数はやや少なく、葉色は平年並～やや濃い状況(酒田農業技術普及課 7月13日付)</p> <p>7月11日現在の「つや姫」の生育は、草丈は平年並～長、葉数は平年並～少ない、葉色は平年並～やや濃い、葉色は平年並～濃い。出穂は8月11～13日の予想(酒田農業技術普及課 7月12日付)</p> <p>(最上) 6月30日の幼穂調査では、出穂時期は平年並と予想。(最上総合支庁農業技術普及課 7月4日付)</p> <p>6月20日現在、管内の生育は概ね平年並みからやや進んでいる。葉色が濃く、葉数過剰が懸念されるほ場もみられる。 (最上総合支庁農業技術普及課 6月24日付)</p> <p>(鶴岡田川) 6月20日現在、葉数が平年より進み、草丈は長く、葉数は平年並、葉色は濃い生育となっている。過剰生育が予想される。(庄内総合支庁農業技術普及課 6月22日付)</p> <p>6月10日現在、直播栽培の生育は、昨年よりもやや遅れているものの、概ね指標並の生育となっている。 (庄内総合支庁農業技術普及課 6月14日付)</p>	<p>・7月の寒いもち、紋枯病の発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生量は平年並、フタオビコガ(仔幼虫)(第2世代)、コメネイナゴの発生量はやや少ないと予想 (山形県病害虫防除所 6月29日公表)</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生は「やや多い」と予想 (農林水産省 6月21日付)</p>
(生育)	<p>・7月5日現在の農業総合センターの生育調査では、調査場所での生育状況が異なっている。本部(郡山)では、草丈が平年並、葉数が平年並みからやや少なく、主穂葉数が平年より多くなっている。会津地域研究所(会津坂下)では、草丈と主穂葉数が平年並、葉数が平年より少なくなっている。浜地域研究所(福島)では、草丈が平年より長く、葉数が平年並より多く、主穂葉数が平年よりやや少なくなっている。 (福島県農林水産部 7月8日付)</p>	<p>・寒いもちの発生や種いもちへの感染が懸念される (福島県病害虫防除所 7月22日公表)</p> <p>・7月中旬から向こう1カ月で、斑点米カメムシの発生が多い予想 (農林水産省 7月12日公表)</p> <p>・7月のいもち病(寒いもち)の発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生量はやや多いと予想 (福島県病害虫防除所 6月29日公表)</p>
(生育)	<p>(水戸市) 出穂期及び幼穂長から予測される出穂期は、平年と比較して「あきたこまち」で平年並～1日遅く、「コンヒカリ」で2日早い。両品種ともに平年と比べ、草丈は平年並、葉数はやや少ない。葉色は「あきたこまち」でやや淡く、「コンヒカリ」で濃い。 5月10日に移した「コンヒカリ」は、幼穂長から予測される出穂期は平年並。平年と比較して、草丈および葉数は平年並、葉色は濃い。 (茨城県農業総合センター農業研究所 7月13日付)</p> <p>(龍ヶ崎市) 「あきたこまち」の出穂期は7月11日で平年より3日早い。幼穂の発育程度から予測される「コンヒカリ」の出穂期は、平年並の7月24日。平年と比べ、草丈は「あきたこまち」でやや長く、「コンヒカリ」で長く、葉数は両品種とも平年並。また、葉色は「あきたこまち」で薄く淡く、「コンヒカリ」で濃い。 (茨城県農業総合センター農業研究所 7月13日付)</p>	<p>・7月のいもち病(寒いもち)の発生量は平年並～やや多いと予想。 斑点米カメムシ類の発生時期はややく、発生量は県下全域でやや多いと予想。 (茨城県病害虫防除所 7月4日公表)</p> <p>・イネミズゾウムシの発生が「やや多い」と予想 (農林水産省 6月21日付)</p>
(生育)	<p>・葉数が少なく、葉色も濃い生育となっている。鹿沼・日光ともに幼穂分化が確認された。5月上旬補植のコンヒカリでは、<u>7月20日頃に出穂期をわかると予測。本年の出穂期は平年より3～4日遅くなる予想(上野原農業指導事務所 7月13日付)。</u> 河内管内の米の生育は、草丈は長く、葉色も進んでおり、出穂は平年より5日(昨年より2日)程度早まる見込み (河内農業振興事務所 7月14日付)</p> <p>6月22日現在、早稲栽培コンヒカリの生育状況(16か所平均)は、草丈は長く(平年比106%)、葉数は平年より少ない(92%)、葉齢は0.2多く、葉色は0.3濃い。葉齢から判断して、生育は1～2日程度進んでいると考えられる。生育診断値(葉色×葉数)は平年比97%と小さい。</p> <p>6月23日現在の出穂期予測は、平均気温が平年並で経過した場合、早稲コンヒカリ(5月4日移植)の出穂期は、宇都宮市(7月27日～28日)、大田原市(8月1日～2日)とも平年より5日程度早いと推定される。 (栃木県農政部 6月24日付)</p>	<p>・7月中旬から向こう1カ月で、縹葉枯病の発生が多い予想 (農林水産省 7月12日公表)</p> <p>・縹葉枯病、セムトビコガの発生が「やや多い」と予想 (農林水産省 6月21日付)</p> <p>・6月下旬～7月下旬の縹葉枯病の発生量は多いと予想 (栃木県農業環境指導センター 6月17日公表)</p>
(生育)	<p>・所内生育相(7月1日現在) 早期栽培(5月2日種 コシヒカリ)は、葉位の進展が早く、移植40日後調査では葉数が平年を上回ったが、中干しが良好に実施できたため、その後の葉小葉の発生を抑えられた。移植60日後の調査では草丈、葉数とも概ね平年並で生育は順調。また、6月末時点で幼穂長が1～2mm程度あり、出穂が5日程度早まる(出穂期の年産7月27日)と予想される。 早稲栽培(5月20日種 彩のかがやき)は、草丈、葉数ともに平年並みで推移している。葉位の進展も概ね平年並であり、生育は順調。 普通栽培(6月24日種 キヌセカリ)は、育苗期間が高温であったため、徒長した充実度が低い苗であったが、移植後の天候が良好であったため、活着は概ね良好。</p> <p>・県内全般(7月1日現在) 普通栽培の移植は、平年より早く作業が進み概ね終了した。早期栽培では移植時期が早いものほど好天に恵まれ、生育は進んでおり幼穂の分化はやや早まっている。中干しは概ね順調に行われた。 早稲栽培の生育は、センター内同様、草丈、葉数は概ね平年並で、高温により幼穂の分化はやや早まっている。 普通栽培の生育は、植え込みや高温による除草剤の薬害も少なかったことから、活着が良好で初期生育も概ね順調である。 早期、早稲栽培は、葉色が早期に低下しやすく、出穂期は平年よりも数日早まると予想される。 普通栽培は、葉色が早期に低下しやすく、幼穂形成期もやや早まると予想される。 (埼玉県農業技術研究センター 7月1日現在)</p>	<p>・7月中旬から向こう1カ月で、縹葉枯病の発生が多い予想 (農林水産省 7月12日公表)</p> <p>・7月の縹葉枯病の発生量は多く、寒いもち、縹葉枯病の発生量はやや多く、紋枯病の発生量は平年並の予想。 ヒメトビコガ、ツマグロヨコバイ、イネノミシ(第2世代幼虫)、セジロウカ、斑点米カメムシ類の発生量はやや多く、イネオオムシ(第3世代幼虫)の発生量はやや少ないと予想 (埼玉県病害虫防除所 6月29日公表)</p>
(生育)	<p>・4月20日頃に補植した「ふさおとめ」、「ふさこがね」、「コンヒカリ」は、平年より2日から3日程度早く出穂期を迎えた。また、5月1日頃に補植した「コンヒカリ」は、平年並みの7月24日頃から出穂期を迎えると予測(千葉県農林水産部 7月15日付)</p>	<p>・7月中旬から向こう1カ月で、縹葉枯病の発生が多い予想 (農林水産省 7月12日公表)</p> <p>・向こう1か月の病害虫の発生量は、いもち病(種いもち)、紋枯病、こま葉枯病は平年並の予想。大型カメムシ類はやや多く、カヌメカメムシ類は多く、ヒメトビコガはやや多く、イネノミシ、セジロウカ、イネオオムシ、イネノミシの発生量は平年並の予想。 (千葉県農林総合研究センター 7月7日公表)</p>
(生育)	<p>・出穂期は、コンヒカリ・こいひぶきとも、平年より3日程度早まる見込み。 コンヒカリの生育は、指標値に比べ、草丈は「やや長い」、葉数は「並」、葉色は「並」状況。 こいひぶきの生育は、草丈は「長い」、葉数は「並み」、葉色は「やや濃い」状況。 (新潟県農林水産部 7月12日付)</p> <p>(岩船) 7月上旬は夜温が高く推移したため上位葉が急伸長し、草丈がやや長くなっている。早生品種の幼穂形成期が平年比3日程度早く進んでいる(村山農業普及指導センター 7月11日現在)</p> <p>(新発田) 指標に比べて草丈が長く、葉数が少ない。コンヒカリの出穂期は平年比1～2日程度早まる見込み。 (新発田農業普及指導センター 7月20日付)</p> <p>(新潟) コシヒカリ(早生)は、草丈「やや長い」、葉数「並」、葉色「並」。こいひぶきは草丈「長」、葉数「やや少」、葉色「並」、葉色「並」。草丈・葉色ともに地域差がみられる。コンヒカリの出穂期は、平年並～2日程度早まる見込み。(新潟農業普及指導センター 7月21日付)</p> <p>(長岡) 7月11日現在のコンヒカリの生育は、指標値(めやす)に比べ、草丈「やや長」、葉数「やや多」、葉色「並」、葉数「早い」。本年の幼穂形成期及び出穂期は、前年並、平年より3日程度早いと予想(長岡農業普及指導センター 7月12日付)</p> <p>(南魚沼) コシヒカリの生育は、指標値に比べ草丈が「やや長い」、葉数が「やや多」、葉色が「やや濃い」となっている。 ほ場ごとの生育のバラツキが大きい。一部ほ場で倒伏や葉萎凋落の懸念がある。 (南魚沼農業普及指導センター 7月21日付)</p> <p>(柿崎) 草丈は長く、葉数は並、葉色は濃く(ほ場間差が大きくなっている。出穂期見込みが早く、8月3～4日頃。 (柿崎農業普及指導センター 7月21日付)</p> <p>(上越) 「コンヒカリ」の生育は草丈が長く、葉数は平年並からやや遅く進んでおり、倒伏の発生が懸念される。 葉数効果として早い状況。「こいひぶき」の出穂期は平年より4～5日遅いと見込まれる(佐田10～15日の田植では7月25～26日頃)。草丈はややく、葉数はやや多く、葉色は濃くなっている。 (上越農業普及指導センター 7月11日現在)</p> <p>(巻) 6月20日現在、草丈は長く、葉数は多い。葉数は早く、葉色は平年並～やや濃い、生育が進んでいるため、早生の出穂は平年比3～4日程度早い見込み。(巻農業普及指導センター 6月20日付)</p> <p>(三条) 7月11日現在、コンヒカリは、草丈が長く下位節間の伸長もみられる。葉色の濃いほ場も多く、倒伏の危険性が高まっている。コンヒカリの出穂期は当初予想どおり平年比2～3日早い8月2日頃(5月5日田植)と予想される(三条農業普及指導センター 7月12日付)</p> <p>(新潟) 7月11日現在の普及センター調査ほのコンヒカリでは、草丈は「長い」、葉数は「並～やや少ない」、葉数は「やや早い」、葉色は「濃い」(新潟農業普及指導センター 7月12日付)</p> <p>(糸魚川) 6月30日現在のコンヒカリは、平年比に比べ草丈は並、葉数はやや多い、葉色は濃い、葉数の進みは並に推移。出穂期は、平年より2日程度早いと見込まれる(糸魚川地域農林振興部 アグリオ7月9日)</p> <p>(佐渡) 7月20日現在のコンヒカリの生育状況(県内調査ほの平均)は、指標値は指標値通り。地域により生育の差が大きく、出穂期に差がある見込み。(佐渡農業普及指導センター 7月21日付)</p> <p>(魚沼) 6月30日現在のコンヒカリの生育状況は草丈「長い」、葉数「並」、葉色「やや早い」、葉色「並」生育が進んでいることから、草丈は長い傾向、葉色の低下度合いの大きいほ場が見られる。 コンヒカリの出穂期は7月15日頃(5月11日田植)と見込まれる(8月2日～5日) (JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 7月12日付)</p>	<p>・7月後半の寒、種いもち、紋枯病、稻こじ病の発生量は平年並の予想。ニカメイチュウ、イネオオムシの発生量はやや少、セジロウカ、ツマグロヨコバイの発生量はやや多、斑点米カメムシ類の発生量はやや多～多い予想。 (新潟県病害虫防除所 7月15日公表)</p>

	生育状況等	同定及び周辺事情に対する自治体等公表資料等（抜粋）
富山	<p>・生育観測(データ)7月19日現在 「コンシカリ」葉齢がやや速んでおり、草丈、葉数、葉色は、概ね平年並みに推移している。幼穂形成期は、<u>平年より4日早い7月9日となった。出穂期は、平年より4日早い7月31日頃と見込まれる。</u> <u>(てんでんこ) 葉齢は平年より速んでおり、草丈、葉数は概ね平年並みに推移している。幼穂形成期は、平年より1日早い7月9日となった。出穂期は、平年より7日早い、8月1日頃と見込まれる。</u> <u>(富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月19日付)</u></p> <p>・直播情報(7月19日現在) ○渚水・中直穂栽培(カルバー) <u>平年に比べ葉齢は速んでおり、草丈は長く、葉数、葉色は平年並みとなっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈は平年並み、葉数はやや多く推移している。幼穂形成期は、平年より4日早い7月14日であった。</u> <u>出穂期は、平年より4日早い、8月4日頃と見込まれる</u> ○渚水普通稲栽培(秋) <u>平年に比べ葉齢は速んでおり、草丈は長く、葉数はやや多く、葉色は近年並みになっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈は近年並み、葉数は多く、葉色はやや多く推移している。幼穂形成期は、近年より2日早い7月1日であった。出穂期は、近年より2日早い、8月7日頃と見込まれる。</u> <u>(富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月19日付)</u></p>	<p>・7月中旬から向こう1カ月で、紋枯病、斑点米カメムシ類の発生が多い予想(農林水産省 7月12日公表)</p> <p>・7月の葉いもち、穂いもち、穂こじ病の発生量ははややく、紋枯病の発生量は多いと予想。 斑点米カメムシ類の発生量は、アカセグホソドリカスミカメは多く、アカスジカスミカメ、トゲシラホシカメムシは平年並みの予想。 ニカメイガ(第2世代)の発生量ははややく、ツマグロヨコバイ、ヒメトビウカの発生量は平年並、セジロウカの発生量ははややく、イネアザハシ、イネノミシ類の発生量は少ないと予想。 (富山県農林水産総合技術センター 7月1日公表)</p> <p>・紋枯病、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想(農林水産省 6月21日付)</p> <p>・注意報—斑点米カメムシ類の発生が県下全域で多いと予想(富山県農林水産総合技術センター 6月21日公表)</p>
石川	<p>(7月19日現在の生育状況) 出穂期 ゆめみづほの出穂が加賀地域、能登地域ともに見られ、近年に比べ加賀地域で4~7日程度、能登地域では8日程度早まった。能登ひかりは近年に比べ3~7日程度早まる見込み。コンシカリの出穂期は、<u>加賀地域で平年に比べ4~5日程度、能登地域は平年に比べ4~6日程度早まる見込み。</u></p> <p>・草丈 コンシカリで平年比107% (加賀地域107%、能登地域108%)とやや長い、ゆめみづほは、<u>近年比111% (加賀地域110%、能登地域114%)と長い。</u></p> <p>・mあたり葉数 コンシカリで平年比98% (加賀地域100%、能登地域96%)と並、ゆめみづほで近年比105% (加賀地域105%、能登地域103%)と平年並。</p> <p>・葉色 コンシカリの葉色は、<u>加賀地域、能登地域とも平年並。</u> <u>(石川県農林水産部農林総合研究センター 7月19日調査)</u></p>	<p>・7月中旬~8月上旬の葉いもち、紋枯病の発生量ははややく、斑点米カメムシ類の発生量は多いと予想。 (石川県農林総合技術センター 7月14日公表)</p> <p>・斑点米の原因となるカメムシ類の発生が多く、<u>斑点米が多発するおそれがある。</u> <u>(長野県農畜虫防除所 7月19日公表)</u></p>
福井	<p>・移植のコンシカリは7/10前後に幼穂形成期を迎えており、草丈がやや長く、葉数はやや少ない。 移植のナナセキは出穂を迎えており平年より4日程度早い。 (水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月15日付)</p>	<p>・7月中旬から向こう1カ月で、紋枯病、斑点米カメムシ類の発生が多い予想(農林水産省 7月12日公表)</p> <p>・7月の葉いもち病、穂いもち病の発生量は平年並み、白葉枯病、紋枯病の発生量は平年よりやや多いと予想。 ニカメイガの発生量は平年より少なく(前年よりやや多い)、ツマグロヨコバイの発生量は平年並、セジロウカ、イネツトムシの発生量は平年並(前年より多い)、イネアザハシの発生量は平年より少ない(前年より多い)と予想。 (福井県農業試験場 6月30日公表)</p> <p>・注意報—斑点米カメムシ類の発生量が平年より多い(前年よりやや少ない)と予想(福井県農業試験場 6月28日公表)</p> <p>・紋枯病の発生が「多い」と予想(農林水産省 6月21日付)</p>
長野	<p>・7月1日現在、豊科定点圃場では草丈は平年並からやや長く、葉数はやや少ない傾向だが、最高分け時期で、畝間の見えなような葉数過剰の圃場も見られる。 6月30日現在、DVIによる生育進捗では、平年より2~3日早いと推定している。豊科定点圃場のあきたこまち は、予想より1日早い7月2日に幼穂形成期に入った。平年より4日早く、昨年と同日。早生種の出穂は平年より早まること予想される。 (松本農業改良普及センター)</p>	<p>・斑点米の原因となるカメムシ類の発生が多く、<u>斑点米が多発するおそれがある。</u> <u>(長野県農畜虫防除所 7月19日公表)</u></p>
滋賀	<p>・6月30日現在の草丈は、「コンシカリ」、「秋の誇」とともに平年より長かった。葉数は、「コンシカリ」が平年並(685本/m)、<u>「秋の誇」が平年よりやや少なかった(656本/m)。</u>葉数は、「コンシカリ」が0.4枚、「秋の誇」が0.3枚平年より多かった。「コンシカリ」の幼穂形成期は7月2日で、平年より4日早かった。 「みずかがや」の出穂期予想は、4月下旬~5月上旬移植の場合は、7月19日前後の見込み。5月中旬移植の場合は、7月25日前後の見込み。6月30日現在の葉数は、5月2日移植で567本/m、5月16日移植で504本/m。 (滋賀県農業技術普及センター 7月6日付)</p>	<p>・穂いもち、白葉枯病の発生量は平年並、紋枯病ははややくと予想。 ニカメイガ(第2世代)、セジロウカ、ヒメトビウカの発生量は平年並、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類、コブノメイガの発生量ははややく、イネツトムシの発生量ははややく、イネアザハシの発生量は少ないと予想。 (滋賀県農畜虫防除所 7月20日公表)</p> <p>・7月下旬以降、斑点米カメムシ類の発生は多い予想(滋賀県農畜虫防除所 7月14日公表)</p>
兵庫	<p>・6月28日現在、県北は葉齢は平年よりやや遅れが早い、草丈は短く、葉数は平年より少ない。県全体では、葉齢は平年より遅れが早い。草丈は平年より少ない。 6月27日現在の生育進捗は、水田平部(移植日5/15)のコンシカリで7月29日、県北山間部(移植日5/10)のコンシカリで8月4日、南但平部(移植日5/20)のコンシカリで8月3日、県南平部(移植日6/1)のキヌヒカリで8月9日、淡路平部(移植日6/20)のキヌヒカリで8月19日。 (兵庫県農政課 7月4日付)</p>	<p>・向こう1カ月の葉いもち、紋枯病、綿葉枯病の発生量は平年並、ヒメトビウカの発生量ははややく、ツマグロヨコバイ、セジロウカ、斑点米カメムシ類、イネツトムシの発生量は平年並、トビウカ、フタホコバ、コブノメイガの発生量ははややく、イネアザハシの発生量は少ないと予想(兵庫県農畜虫防除所 7月21日公表)</p> <p>・ヒメトビウカの発生が「やや多い」と予想(農林水産省 6月21日付)</p>
岡山		<p>・7月中旬から向こう1カ月で、いもち病の発生が多い予想(農林水産省 7月12日公表)</p> <p>・7月の葉いもち、穂いもち、紋枯病の発生量ははややく、綿葉枯病の発生量ははややく、ヒメトビウカ、セジロウカ、トビウカの発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生量は少ないと予想(岡山県 6月30日公表)</p>
広島		<p>・7月中旬から向こう1カ月で、いもち病、セジロウカの発生が多い予想(農林水産省 7月12日公表)</p> <p>・7月中旬~下旬の葉いもちの発生は中北部でやや多く、南部で平年並。セジロウカは全域でやや多く、斑点米カメムシ類は少ないと予想(広島県農畜技術指導所 7月11日公表)</p>
山口	<p>・各品種とも、おおむね過去の平均と同程度の生育状況となっている。5月中旬までに移植したコンシカリ等で、概ね最高分け時期となった。曇雨天・深水等の影響で、葉が長く、草姿が乱れ、葉数がやや少ないほ場もみられる。コンシカリ、ひとめぼれの出穂は、5月上旬移植で7月29日頃、5月中下旬移植で8月3日頃と予想。 (JA大門大津、長門農林事務所農業者 7月1日付)</p>	<p>・7月中~下旬、県内全域で葉いもちの発生が多いと予想(山口県 7月18日公表)</p> <p>・7月中旬から向こう1カ月で、いもち病、セジロウカの発生が多い予想(農林水産省 7月12日公表)</p> <p>・7月の葉いもち(葉いもち)の発生量は多く、紋枯病の発生量は平年並、ヒメトビウカ(綿葉枯病)の発生量ははややくと予想。セジロウカの発生量は多く、トビウカ、コブノメイガ、斑点米カメムシ類の発生量は平年並と予想。</p>
愛媛	<p>・早期栽培のコンシカリ、あきたこまちは穂肥の時期にあたる。早期栽培は、幼穂形成から出穂・開花期を迎える。水を必要とする時期であるため、やや深水に灌水しきめ細かい水管理を行うよう指導。普通期水稲は、多雨が予想されるため洗水管理を基本とし、穂の健全化を図るよう指導。 (愛媛県農林水産研究所 7月1日付)</p>	<p>・7月中旬から向こう1カ月で、いもち病の発生が多い予想(農林水産省 7月12日公表)</p> <p>・7月の葉いもち(普通期栽培、葉いもち、早期栽培、穂いもち)の発生量ははややく、紋枯病、セジロウカの発生量は平年並、コブノメイガははややく、イネツトムシ第2世代は平年並、はややく、斑点米カメムシ類(早期・早穂栽培)ははややくと予想。 (愛媛県農畜虫防除所 6月30日公表)</p>
高知	<p>・早期水稲(6月17日現在) 最高分け時期は、「南国そだち」がやや早く、「コンシカリ」は平年並み。同期における草丈は、「南国そだち」が平年並み、「コンシカリ」はややく長くなっている。葉数は、「南国そだち」が少なく、4月5日植え「コンシカリ」は平年並み、4月14日植え「コンシカリ」が少なくなっている。 出穂期は、4月5日植え「南国そだち」は6月16日。また、幼穂形成後日数より推定した「コンシカリ」の出穂期は、4月5日植え(6月26日)、4月14日植え(7月2日)となっている。いずれの品種、作型とも平年より4~7日早くなる模様。 ・普通期水稲(6月17日現在) 6月3日植え「ヒノヒカリ」は、草丈は平年並みで、葉数が平年よりやや少なめ、葉齢で見た生育進捗は平年並み。 (高知県農業技術センター 6月22日付)</p>	<p>・7月中旬から向こう1カ月で、いもち病の発生が多い予想(農林水産省 7月12日公表)</p> <p>・7月の葉いもち(穂いもち)の発生量ははややく、トビウカの発生量は平年並、イネアザハシの発生量は平年並、ヒメトビウカの発生量は平年並、セジロウカは全域でやや多く、斑点米カメムシ類は少ないと予想(高知県農畜技術指導所 7月11日公表)</p> <p>・7月中~下旬、県内全域で葉いもちの発生が多いと予想(山口県 7月18日公表)</p> <p>・7月中旬から向こう1カ月で、いもち病、セジロウカの発生が多い予想(農林水産省 7月12日公表)</p> <p>・7月の葉いもち(葉いもち)の発生量は多く、紋枯病の発生量は平年並、ヒメトビウカ(綿葉枯病)の発生量ははややくと予想。セジロウカの発生量は多く、トビウカ、コブノメイガ、斑点米カメムシ類の発生量は平年並と予想。</p> <p>・7月中旬から向こう1カ月で、いもち病の発生が多い予想(農林水産省 7月12日公表)</p> <p>・7月の葉いもち(穂いもち)の発生量ははややく、トビウカの発生量は平年並、イネアザハシの発生量は平年並、ヒメトビウカの発生量は平年並、セジロウカは全域でやや多く、斑点米カメムシ類は少ないと予想(高知県農畜技術指導所 7月11日公表)</p> <p>・注意報—イネいもち病(葉いもち、穂いもち)発生地域は県内全域で、発生時期は6月下旬以降(高知県農畜虫防除所 6月30日公表)</p>
福岡	<p>6月10日移植の夢つくしでは、草丈は平年より14%高く、葉数は平年並で、主穂葉数は0.8葉多い。 6月20日移植のヒノヒカリでは、草丈は4~5%高く、葉数は25~18%少なく、主穂葉数は0.2~0.5葉多い。 (福岡県農林水産総合技術センター 7月19日付)</p>	<p>・7月中旬から向こう1カ月で、セジロウカの発生が多い予想(農林水産省 7月12日公表)</p> <p>・7月のセジロウカの発生量ははややく、トビウカの発生量は平年並の予想。 (福岡県農畜虫防除所 7月1日)</p>
熊本		<p>・7月の早期水稲の穂いもちの発生量は平年と比べやや多いと予想。早稲水稲の葉いもち、普通期水稲の葉いもちの発生量は平年並、早稲水稲・普通期水稲のセジロウカの発生量は平年並の予想。 (熊本県農畜虫防除所 6月30日公表)</p>

	生育状況等	向及び無知事項に対する自治体等公表資料等（注称）
宮 崎	<p>・早期米生育状況（6月下旬） 幼穂形成期～出穂期を迎えている。平年より4日早い進捗。6月以降も平年に比べ、気温が高くなったため、生育が早く進んでいる。草丈は平年に比べて高く、莖数は平年よりやや少なくなっているが、概ね順調に生育している。 (JA宮崎経済連ホームページ「平成28年産早期米生育状況」7月7日付)</p> <p>・早期水稲 6月15日現在の生育ステージ（県全体） 稲ばらみ期～出穂期を迎えている。平年よりも早い進捗。平均気温は平年より高く、降水量は平年より少なくなっている。草丈は平年よりやや高く、莖数や葉齢はほぼ平年並みとなっている。出穂最盛期は6月20日頃と予想されている。 (中部地区) 稲ばらみ期～出穂期。平年より4日早い進捗。草丈が平年よりやや高く、莖数や葉齢はほぼ平年並み。一部のほ場では、6月10日に出穂が確認された。出穂始期は6月19日頃、出穂最盛期は6月22日頃と予想される。 (南那珂地区) 稲ばらみ期～出穂期。平年より5日早い進捗。6月に入っても高温に推移したことから生育が進んでいる。出穂始期は平年より5日早い6月12日となり、最盛期は平年より8日早い6月15日となっている。 (児湯地区) 幼穂形成期～稲ばらみ期。平年より2日早い進捗。西都町や木城町を中心とする移転が早い地域では13～15日を中心、ほ場で出穂期に入りつつある。 (東臼杵南部地区) 減数分裂期～稲ばらみ期。平年より5日早い進捗。草丈は平年より高く、莖数は平年並みとなっている。幼穂長は管内平均が14.3cmとなっており、生育の早いところでは走り穂が見られている。 (JA宮崎経済連ホームページ「宮崎県産早期米産地情報」7月7日付)</p>	<p>・7月中旬から向こう1カ月で、いもち病、セジロウカカの発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</p> <p>・早期水稲 病害虫の発生量の平年比は、粟いもちはやや多く、紋枯病は平年並、ツマグロヨコバイはやや少く、セジロウカカはやや多く、ヒメトビウンカと斑点米カメムシ類はやや多く、ヒメトビウンカは平年並の予想。</p> <p>・普通期水稲 病害虫の発生量の平年比は、粟いもちはやや多く、ツマグロヨコバイ、セジロウカカ、ヒメトビウンカは平年並、スクミリンコガイの発生量はやや少ないと予想。 (宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月24日公表)</p>
鹿 児 島		<p>・7月中旬から向こう1カ月で、いもち病の発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</p> <p>・7月の早期水稲のいもち病（穂いもち）の発生量はやや多く、紋枯病の発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生量はやや多いと予想。 普通期水稲のいもち病（粟いもち）の発生量はやや多いと予想。 (鹿児島県病害虫防除所 6月29日公表)</p>

注1：地方自治体及び出先機関並びにJA等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。
注2：生産数量目標、収穫量、作況については、農林水産省の公表資料から抜粋。

道府県	備考 気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）	生産数量目標				収穫量（主食用） 27年度	作況指数 27年度
		参考					
		平成28年度	前年度との比較	増減率	自主的取組参考値（深緑）		
	t	t	%	t	t		
全 国	<ul style="list-style-type: none"> 7月23日～8月22日の1か月間は、東日本では、期間のはじめは気温が低く、向こう1か月の気温も平年並か低い見込み。東日本太平洋側では、向こう1か月の日照時間は少なく、北日本太平洋側と東日本日本海側でも、向こう1か月の日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁 7月21日発表） 2014年夏に発生したエルニーニョ現象は、2016年春に終息したとみられる。今後、夏の間にラニーニャ現象が発生し、秋にかけて続く可能性が高い。インド洋熱帯域の海面水温は基準値より高い値が続いており、今後秋にかけて次第に基準値に近づくと予測される。（気象庁 地球環境・海洋部 6月10日発表） （7～9月の3か月間の見直し） 向こう3か月の気温は、東・西日本と沖縄・奄美が高く、北日本では平年並か高い見込み。北日本と東日本日本海側では、向こう3か月の降水量は平年並か多い見込み。7月は、北日本では、平年に比べ曇りや雨の日が多く、東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込み。東日本太平洋側と西日本では、期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多く、期間の後半は平年と同様に晴れの日が多い見込み。8月は、北日本では、天気は数日の周期で変わり、東・西日本では、平年と同様に晴れの日が多い見込み。9月は、北・東日本と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わり、西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。（気象庁 6月24日発表） 	7,430,000	▲ 80,000	▲ 1.1	7,350,000	7,442,000	104
北 海 道	<ul style="list-style-type: none"> 北海道地方の7月23日～8月22日の1か月間は、気温はほぼ平年並～平年並、降水量はほぼ平年並。日照時間は日本海側とオホーツク側で平年並、太平洋側で平年並か少ない見込み。（札幌管区気象台 7月21日発表） 						
青 森	<ul style="list-style-type: none"> 東北地方の7月23日～8月22日の1か月間の気温は日本海側で平年並、太平洋側で平年並か低い見込み。降水量は日本海側でほぼ平年並、太平洋側で平年並か多い見込み。日照時間は、日本海側で平年並か少なく、東北太平洋側で少ない見込み。（仙台管区気象台 7月21日発表） 東北北部では23日頃にかけて太平洋側を中心に気温が低く、日最低気温・日最高気温ともに6月下旬並となる見込み（気象庁 7月20日発表） 	541,500	▲ 5,830	▲ 1.1	535,669	559,600	104
岩 手	<ul style="list-style-type: none"> 同上（仙台管区気象台） 	239,877	▲ 2,583	▲ 1.1	237,294	229,800	105
宮 城	<ul style="list-style-type: none"> 同上（仙台管区気象台） 	268,321	▲ 2,889	▲ 1.1	265,432	269,400	105
秋 田	<ul style="list-style-type: none"> 同上（仙台管区気象台） 	344,906	▲ 3,714	▲ 1.1	341,193	348,400	103
山 形	<ul style="list-style-type: none"> 同上（仙台管区気象台） 	413,092	▲ 4,448	▲ 1.1	408,644	419,400	103
福 島	<ul style="list-style-type: none"> 同上（仙台管区気象台） 	340,830	▲ 3,670	▲ 1.1	337,160	354,300	103
茨 城	<ul style="list-style-type: none"> 関東甲信地方の7月23日～8月22日の1か月間は、気温は平年並か低く、降水量は平年並か多く、日照時間は少ない見込み（気象庁 7月21日発表） 農業用水で、鬼怒川、利根川、江戸川、神流川では10%取水制限中。渡良瀬川では20%取水制限中。（国土交通省 6月27日現在） 	335,933	▲ 3,617	▲ 1.1	332,316	342,600	101
栃 木	<ul style="list-style-type: none"> 同上（気象庁） 同上（国土交通省 6月27日現在） 	333,776	▲ 3,594	▲ 1.1	330,182	345,400	96
埼 玉	<ul style="list-style-type: none"> 同上（気象庁） 同上（国土交通省 6月27日現在） 	295,508	▲ 3,182	▲ 1.1	292,326	287,300	98
千 葉	<ul style="list-style-type: none"> 同上（気象庁） 同上（国土交通省 6月27日現在） 	149,659	▲ 1,611	▲ 1.1	148,047	152,200	97
新 潟	<ul style="list-style-type: none"> 北陸地方の7月23日～8月22日の1か月間は、気温は平年並、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（新潟地方気象台 7月14日発表） 	243,864	▲ 2,626	▲ 1.1	241,239	297,500	101
富 山	<ul style="list-style-type: none"> 同上（新潟地方気象台） 	515,737	▲ 5,553	▲ 1.1	510,184	539,600	97
石 川	<ul style="list-style-type: none"> 同上（新潟地方気象台） 	183,672	▲ 1,978	▲ 1.1	181,695	191,200	103
		122,313	▲ 1,317	▲ 1.1	120,996	123,200	101

気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）		t	t	%	t	t	t
福井	同上（新潟地方気象台）						
長野	・ 関東甲信地方の7月23日～8月22日の1か月間は、気温は平年並か低く、 降水量は平年並か多く、日照時間は少ない見込み。（気象庁 7月21日発表）	124,124	▲ 1,336	▲ 1.1	122,787	123,800	99
滋賀	・ 近畿地方の7月23日～8月22日の1か月間は、気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多く、 日照時間は平年並か少ない見込み。（大阪管区気象台 7月21日発表）	191,933	▲ 2,067	▲ 1.1	189,867	194,500	97
兵庫	同上（大阪管区気象台）	158,741	▲ 1,709	▲ 1.1	157,032	158,500	100
岡山	・ 中国地方の7月23日～8月22日の1か月間は、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並、 日照時間はほぼ平年並の見込み。（広島地方気象台 7月21日発表）	178,518	▲ 1,922	▲ 1.1	176,596	178,900	99
広島	同上（広島地方気象台）	156,861	▲ 1,689	▲ 1.1	155,172	149,500	96
山口	・ 九州北部地方（山口県含む）の7月23日～8月22日の1か月間は、気温は平年並か高く、 降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。（福岡管区気象台 7月21日発表）	128,585	▲ 1,385	▲ 1.1	127,201	121,700	96
愛媛	・ 四国地方の7月23日～8月22日の1か月間は、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並、 日照時間はほぼ平年並の見込み。（高松地方気象台 7月21日発表）	107,601	▲ 1,159	▲ 1.1	106,443	100,700	97
高知	同上（高松地方気象台）	73,133	▲ 787	▲ 1.1	72,345	71,200	98
福岡	・ 九州北部地方（山口県含む）の7月23日～8月22日の1か月間は、気温は平年並か高く、 降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。（福岡管区気象台 7月21日発表）	49,537	▲ 533	▲ 1.1	49,003	52,800	96
熊本	同上（福岡管区気象台）	180,526	▲ 1,944	▲ 1.1	178,582	172,300	95
宮崎	・ 九州南部地方の7月23日～8月22日の1か月間は、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並、 日照時間はほぼ平年並の見込み。（鹿児島地方気象台 7月21日発表）	187,293	▲ 2,017	▲ 1.1	185,277	171,500	97
鹿児島	同上（鹿児島地方気象台）	92,603	▲ 997	▲ 1.1	91,606	74,700	93
		109,887	▲ 1,183	▲ 1.1	108,704	95,700	95

参考資料:

平成28年度産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)
平成27年度産水陸稲の収穫量(農林水産省)
平成28年度病害虫発生予報第4号(農林水産省)

農作物の生育状況 7月15日現在(北海道 7月21日)、農作物生育状況 7月15日現在(北海道空知総合振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道石狩振興局 7月21日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道後志総合振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道胆振総合振興局 7月21日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道日高振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道渡島総合振興局 7月21日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道檜山振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道上川総合振興局 7月21日)、農作物生育状況調査の概要 7月15日現在(北海道留萌振興局 7月21日)
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月21日)、
病害虫発生予察情報第6号7月予報(北海道病害虫防除所 6月30日)、
H28水稲作況(6月30日現在)(青森県産業技術センター農林総合研究所 7月1日)、稲作生産情報第5号(青森県 7月5日)、
平成28年度病害虫発生予報第4号(7月予報)(青森県病害虫防除所 6月29日)、
平成28年度水稲生育定期調査結果No.4(7月5日現在)(岩手県農業研究センター 7月7日)、農作物技術情報第4号水稲(岩手県 6月30日)、
平成28年度農作物病害虫防除速報No.10(岩手県病害虫防除所 7月19日)、平成28年度病害虫発生予察情報発生予報第4号(7月予報)(岩手県病害虫防除所 6月29日)、
平成28年度水稲の生育状況について(7月11日現在)(宮城県農林水産部 7月12日)、平成28年度発生予察情報発生予報第7号-水稲(宮城県病害虫防除所 7月21日)、
仙台直播情報平成28年度版第1号(宮城県仙台農業改良普及センター 7月1日)、仙台稲作情報第3号(宮城県仙台農業改良普及センター 7月14日)、
平成28年度稲作情報第2号(宮城県亶理農業改良普及センター 6月13日)、
平成28年度大崎稲作情報第4-2号(宮城県大崎農業改良普及センター 7月21日)、平成28年度産山南稲作情報(第6号)(宮城県大河原農業改良普及センター 7月20日)、
稲作情報Vol.4(本吉農業改良普及センター 7月4日)、栗原の稲作通信平成28年度第5号(宮城県栗原農業改良普及センター 7月13日)、
登米地域の稲作通信第6号(宮城県登米農業改良普及センター 7月13日付)、平成28年度産美里地区の稲作情報第3号(宮城県美里農業改良普及センター 6月23日)、
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」http://www.e-komachi.jp/ 7月21日)、
平成28年度農作物病害虫発生予察情報発生予報第3号(7月予報)(秋田県病害虫防除所 7月1日)、
米づくり技術情報No.7(オールやまがた米づくり日本一運動本部 県産米ブランド推進課 7月20日)、
稲作だより第6号穂肥特集号(村山総合支庁西村山農業技術普及課 7月4日)、
酒田・飽海日本一米づくり情報第8号・酒田飽海つや姫情報第6号(酒田農業技術普及課 7月12日)、
稲作だより第6号(村山総合支庁産業経済部北村山農業技術普及課 7月5日)、つや姫だより第4号(村山総合支庁産業経済部北村山農業技術普及課 7月5日)、
おいしい米づくり情報第7号(村山総合支庁農業技術普及課 7月5日)、つや姫通信第4号(村山総合支庁農業技術普及課 7月12日)、
平成28年第1号おきたまつや姫だより(置賜総合支庁農業技術普及課 7月5日)、おきたまつや姫だより情報No.6(置賜総合支庁農業技術普及課 7月5日)、
稲作だより第8号穂肥編(最上総合支庁農業技術普及課 7月4日)、稲作だより第7号本田初期編(最上総合支庁農業技術普及課 6月24日)、
おいしい米づくり情報第8号(庄内総合支庁農業技術普及課 6月22日)、
水稲直播情報第3号(庄内総合支庁農業技術普及課 6月14日)、
平成28年度農作物有害動植物発生予察情報発生予報第4号(7月)(山形県病害虫防除所 6月29日)、
主要な農作物の生育情報平成28年度第4号(福島県農林水産部 7月8日)、平成28年度病害虫発生予察情報発生予報第3号(6月)(福島県病害虫防除所 6月29日)、
平成28年度病害虫発生予察情報注意報第4号(福島県病害虫防除所 7月22日)、
農研速報(水稲の生育状況)(7月11日現在、水戸市)(茨城県農業総合センター 7月4日)、(7月11日現在、龍ヶ崎市)(茨城県農業総合センター 7月13日)、
病害虫発生予報7月号(茨城県病害虫防除所 7月4日)、平成28年度病害虫発生予報第2号(栃木県農業環境指導センター 5月20日)、
平成28年度水稲生育診断予測事業速報No.3(栃木県農政部 6月24日)、平成28年度病害虫発生予報第3号(栃木県農業環境指導センター 6月17日)、
河内管内水稲技術情報7月号(栃木県河内農業振興事務所)、水稲管理情報Vo.2(栃木県上都賀農業振興事務所)
平成28年度水稲の生育概況vol.2(埼玉県農業技術研究センター 7月7日)、
平成28年度病害虫発生予報第3号(7月予報)(埼玉県病害虫防除所 6月29日)、水稲の生育状況と当面の対策第4報(千葉県農林水産部 6月28日)、
平成28年度病害虫発生情報第1号(千葉県農林総合研究センター 6月9日)、平成28年度病害虫発生予報第4号(千葉県病害虫防除所 7月7日)、
平成28年度病害虫発生予察注意報第1号(千葉県農林総合研究センター 7月1日)、
水稲の生育状況と今後の管理対策(第5号)(新潟県農林水産部 7月12日)、
岩船米生育速報(7月11日現在)(村上農業普及指導センター)、稲作生育速報No.5(佐渡農業普及指導センター 7月11日)
新発田地域水稲生育速報No.6(新発田農業普及指導センター 7月20日)、稲作技術情報No.5・水稲生育速報No.5(新潟農業普及指導センター 7月12日)
水稲生育速報(長岡農業普及指導センター 6月30日)、南魚沼地域水稲生育速報4(南魚沼農業普及指導センター 7月12日)、
稲作情報No.5(南魚沼農業普及指導センター 7月20日)
稲作管理情報6(柏崎農業普及指導センター 7月21日)、平成28年上越地域米水稲生育速報(7月20日)(上越農業普及指導センター 7月20日)、
アグリオン7月号(糸川川地域農林振興部)、平成28年度稲作生育速報No.3(佐渡農業普及指導センター 6月20日)、
売れる米づくり技術対策資料 No.3(新潟農業普及指導センター 6月23日)、新潟稲作速報No.3(新潟農業普及指導センター 6月20日)、
水稲生育速報(巻農業普及指導センター 6月20日)、
号外FAX稲作速報(三条農業普及指導センター 6月24日)、FAX稲作速報No.9(三条農業普及指導センター 7月12日)、
平成28年産「上越地域米」栽培技術情報 No.5(上越農業普及指導センター 6月22日)、
稲作情報(JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 7月12日付)、平成28年度病害虫発生予察情報・注意報第1号(新潟県病害虫防除所 6月29日)、
平成28年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第5号(7月後半の発生予想)(新潟県病害虫防除所 7月15日)、
TACS情報第8号(富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月19日)、直播情報(第6号)(富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月19日)、
病害虫発生注意報第1号(富山県農林水産総合技術センター 6月21日)、病害虫発生予報第4号(富山県農林水産総合技術センター 7月1日)、
平成28年度水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-6号)(石川県農林総合研究センター 7月19日)、
病害虫発生予報第4号・注意報第1号(石川県農林総合研究センター 7月14日)、
病害虫発生予報第4号・注意報第1号(石川県農林総合研究センター 7月14日)、
稲作情報No.11(福井県 水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月15日)、平成28年農作物病害虫発生予察予報第5号(福井県農業試験場 6月30日)、
平成28年農作物病害虫発生予察注意報第1号(福井県農業試験場 6月28日)、
平成28年作物技術普及情報第10号(松本農業改良普及センター)、
稲作ワンポイントアドバイス(No1)(JA長門大津、長門農林事務所農薬部 6月11日)、
病害虫発生予報注意報第3号(長野県病害虫防除所 7月19日)、
平成28年度水稲生育診断情報No.3(滋賀県農業技術振興センター 7月6日)、平成28年病害虫発生予報第7号(滋賀県病害虫防除所 7月20日)、
病害虫発生予察注意報第3号(滋賀県病害虫防除所 7月14日)
平成28年度兵庫県農業気象技術情報第3号(7月情報)について(兵庫県農政環境部 7月4日)、平成28年度病害虫発生予察予報第3号(兵庫県病害虫防除所 7月21日)、
広島県病害虫発生予察情報予報第3号(水稲)(広島県西部農業技術指導センター 7月11日)
平成28年度病害虫発生予報第4号(岡山県病害虫防除所 6月30日)、稲作ワンポイントアドバイス(No3)(JA長門大津、長門農林事務所農薬部 7月1日)、
平成28年度農作物病害虫発生予察技術資料第2号(山口県病害虫防除所 6月20日)、農作物病害虫発生予報7月(山口県病害虫防除所 7月1日)、
農作物病害虫発生予察注意報第2号(山口県 7月15日)、
気象情報に基づく技術対策、作物(愛媛県農林水産研究所 7月1日)、病害虫発生予報(7月)(愛媛県病害虫防除所 6月30日)、
平成28年度における水稲の生育状況(6月17日時点)(高知県農業技術センター 6月22日)、
平成28年度病害虫発生予報第4号(7月)(高知県病害虫防除所 7月5日)、平成28年度病害虫発生予察注意報第1号(高知県病害虫防除所 6月30日)、
平成28年度病害虫発生予報第4号(7月)(福岡県病害虫防除所 7月1日)、
福岡県米麦大豆生育情報(福岡県農林業総合試験場 7月19日)、平成28年度病害虫発生予報第4号(7月予報)(熊本県病害虫防除所 6月30日)、
平成28年度官崎産早期米産地情報(平成28年6月15日現在)・平成28年度早期米生育状況(官崎経済連ホームページ「http://www.miyazaki-cha.jp/kome/index.html」7月7日)、
平成28年度病害虫発生予報第3号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 6月24日)、平成28年度病害虫発生予報第4号(7月)(鹿児島県病害虫防除所 6月29日)、
平成28年度技術情報第7号(鹿児島県病害虫防除所 6月6日)

北海道地方こう1か月の天候の見通し(札幌管区気象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(仙台管区気象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(気象庁)、
北陸地方こう1か月の天候の見通し(新潟地方気象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(大阪管区気象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(広島地方気象台)、
四国地方こう1か月の天候の見通し(高松地方気象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(福岡管区気象台)、九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(鹿児島地方気象台)
低温に関する東北地方気象情報第1号(気象庁 7月20日)、エルニーニョ監視速報(No. 285)(気象庁地球環境・海洋部 6月10日)
平成28年度渇水状況について(6月27日0時現在)(国土交通省 平成28年 6月27日)